No.２７０１

地味で訪れる人の少ない山歩き
大垰山からセーメーバン

実施日　２０１４年１１月３０日（日）
天　候　曇り
リーダー　石原　勝正
Ｓ　Ｌ　伊藤　久雄
参加者　一柳昭、涌井良明、島本陳重、山崎富美恵、白石恵美子、渋谷京子、中村友子、伊藤久雄、宇野輝代、石原勝正、小名秀鋭、瀧澤きよの、濱田優美子　計13名
費　用　JR1,160円（高尾駅起算）
🚗630円　計1,790円
タイム　ＪＲ大月駅(8:30~8:50)金山鉱泉登山口(9:05~10:40)大垰山(10:45~11:15)セーメーバン(11:55~12:20昼食)桜沢峠(12:28~12:55)トズラ峠(13:05~13:50)笹平(13:50~14:10)稚児落とし(14:10~14:30)浅利下山口(14:35~15:10)ＪＲ大月駅

ＪＲ大月駅からタクシーを利用して午前9時前に金山鉱泉の登山案内標識のある登山口に到着する。

直進すると金山峠に直接向かう登山道であるが、登山口標識から分岐してすぐ右下を流れる金山沢を渡る道に下る。

沢にかけられた橋は古い木製の橋で今にも朽ちて落ちそうに見えて危険そうなため慎重に渡り、向かい側の杉林の山道に取り付く。

暫く登ると落葉樹帯に入りジグザグの道を小半時ほど急登すると大垰山から派生した明るい狭い尾根に上る。

標高差２００メートルほどの登りで汗が噴き出してきたため全員５分ほどの短い着替えのブレークタイムをとる。

狭い尾根上の自然林の続く道はところどころ樹林の間から富士山、滝小山、雁ヶ原摺山、三つ峠などの展望が開けるはずであったが、朝は晴れ間が見えていた空に厚い雲が広がり、眺望も期待できなくなってきた。

尾根上をさらに１時間ほど登り続けると大垰山らしきピークが見え隠れするようになり、暫くすると杉林に入り金山峠と大垰山・セーメーバンを分ける標識に到達する。直進すると金山峠から雁ヶ原摺山方面に向かうコースなので右に向かうコースに入りひと登りすると右に大垰山西峰と左に東峰を分ける分岐点となり最初に右側の西峰に向かう。西峰はピークらしきものもなく樹林の中の少し開けた静かな山頂で展望にも恵まれていない。

再び分岐点に戻り直進して少し登り返すと白ブナの標識のある大樹を過ぎて大垰山山頂という標識のある山頂に立つ。

東峰も樹間より空を覗くとどんよりとした厚い雲におおわれて展望もなく晩秋の静かな寒い場所である。

昼食時間には若干早いため次のセーメーバンで昼食をとることとし、５分ほどの休憩と山頂の標識をバックにした全員の記念写真をとりすぐにセーメーバンに向かって尾根を下る。

セーメーバンまでの尾根は比較的広く尾根全般に落ち葉が厚く降り積もっているため踏み跡が判別しにくくなっているが傾斜が緩いところが多いため歩きやすく小走りに下ることができる。東峰から

一段下ると送電鉄塔が建てられており、国土地理院の地図を見るとセーメーバン、高の丸ピーク、トズラ峠、稚児落としとこれからたどる尾根に沿って続いているので道標として目印にしやすい。

送電塔3つほど過ぎてゆっくりとした登りを過ぎるとセーメーバンの小さなセーメーバンと書かれた山頂に到達する。

山と高原地図の標準タイム通りに歩けたので山頂で４５分ほどの昼食タイムをとる。昼食は女性会員からの漬物などのおかずや果物の差し入れがあり美味しくいただく。

山頂の三角点の標識の近くで２回目の集合写真を撮った後再び落葉の道を桜沢

峠まで下り、桜沢峠から送電塔の立つ高の丸まで登り返し装道と交わるトズラ峠に降りる。引き続き登り下りともセーメーバンから続く送電塔巡視路となっているがこの辺りからセーメーバン尾根筋の歩きやすい下り道と異なり昨日の雨でぬれた樹脂の階段が落葉に隠れて滑りやすく歩きにくい道となる。

トズラ峠から標高差１００メートルほど登り返し２つ目のピークが笹平となる。笹平は開けて広いピークであるが笹の生えた一画に小さな手書きの標識と三角点があるだけで知らずに見逃しやすい平凡な山頂である。

笹平から急な下りを降りると岩殿山から続くハイキングコースに合流し、稚児落としといわれる岩壁の上部を通過する。

稚児落としから更に急坂や鎖場のある岩場を通過しながら下ると民家のある浅利

集落のある下山口に降りる。民家裏手から浅利川を渡り舗装道に出て公民館バス停を通り中央自動車道の下を通過して４０分ほどの徒歩で大月駅に到達する。

今日は地味で人の訪れる人の少ない静から山歩きと晩秋の陽だまりを歩いて展望を楽しもうというテーマであったが、あいにく曇天で展望はほとんど望めなかったものの、我々こぶし会パーティ以外の登山客にはほとんど会うこともなく（最後の稚児落としからの下山ルートで１組の家族ハイカーのみの遭遇しかなかった。）静かな山歩きを十分堪能することができた山行になった。

（記・石原　勝正）

（写真提供・涌井　良明）